

平成30年3月吉日
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校長 棚田 和明

平成29年度の改善方策に基づく改善結果について

1 「生徒・保護者・地域の方々からの高い評価の継続」について

- (1) I C T の効果的な活用や話し合い活動を取り入れるなどの授業改善に取り組んできた。しかし、生徒アンケート「授業の内容はよくわかる」と保護者アンケート「子どもたちにとってわかりやすい授業が行われている」の肯定的評価は、どちらも約4ポイント減少した。生徒が達成感をえられるように、できることを認める指導をさらに追求していきたい。
- (2) 保護者アンケート「子どもたちに問題となる行動は少ない」の肯定的評価が約8ポイントと大きく減少した。望ましい行動を増やそうとする予防開発的な生活指導を推進し、自ら正しく判断して行動できる生徒を育成する。
- (3) 保護者アンケート「安全確保のための情報提供を適切に保護者へ提供している」「災害時の対応を保護者に周知している」の肯定的評価がどちらも10ポイント以上増加した。工夫改善の成果であり、次年度も安全指導については一層の工夫を取り入れ、定着させていきたい。
- (4) 生徒会活動やJ R C部を中心とした地域行事への協力が定着し、地域アンケート「地域活動や行事によく協力している」の肯定的評価が90%を超える高い評価を得た。今後とも継続した活動に定着させていきたい。

2 「授業の進行管理・生徒に対する公平性をふんだんにした授業改善」について

- (1) お互いを認めあえる生徒の育成をめざして、一人ひとりの生徒を大切にする生徒指導を進めてきた。生徒アンケートの肯定的評価は「先生に指導されたことは納得できる」と「将来の生き方や進路について先生と相談する機会が十分である」が約5ポイント、「先生は誰に対しても公平である」が約6ポイント増加し、成果が表れた。
- (2) 生活指導スタンダードを策定し実践した結果、生徒アンケート「先生は授業の開始・終了時刻を守っている」の肯定的評価が約2ポイント増加した。まだ全校体制での共通実践にまでは至ってないので、生活指導部を中心とした組織的対応を充実させていきたい。
- (3) 図書館活用と新聞活用についてはまだ工夫改善の余地がある。年間指導計画への位置づけと様々な活動と連動させた「横断的な学習」につなげていきたい。

3 「保護者への情報提供・保護者が学校を訪れる機会を増やす工夫」について

- (1) 学校だよりと学校運営委員会だよりの定期的な発行が十分にできなかった面がある。地域社会への情報発信として、町会の回覧板に学校からのたよりを掲載していただく働きかけをしていきたい。
- (2) 学校ホームページの更新数は昨年度を上回り、とても充実させることができた。
- (3) 土曜授業日に百人一首大会・作品展・新入生保護者説明会を実施したところ、多くの参観者があった。土曜日の活用には成果が見られたので、来年度も工夫していきたい。